

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870700283		
法人名	社会福祉法人芳香会		
事業所名	グループホーム穂の香		
所在地	茨城県結城市七五三場365		
自己評価作成日	令和 6年 2月 4日	評価結果市町村受理日	令和 6年 4月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0870700283-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、より高度なレベルの専門性が求められる集大成の場所であると認識しており、介護福祉士等の専門職を多く配置し知識や技術を含めた専門性の高いサービスの提供を出来るようにしている。また、地元住民方と自主防災組織と協定を締結し、地域との信頼関係がより深まると共に有事の際は迅速な応援体制により防災への強化に繋がっている。

事業所外の活動としては、認知症キャラバン・メイトの会員として、一般・職域向け及び子ども認知症サポーター養成講座を通し、認知症を正しく理解して頂けるよう努めている。また、市が主催する各会議や在宅医療・介護連携推進事業に参加し(多職種連携ワーキンググループに所属)地域包括ケアシステムの確立に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

養護老人ホーム、特別養護老人ホームと隣接する1ユニットのグループホームである。広く小高い敷地に建ち、下の田んぼなどを見渡すことができる眺望となっている。土砂災害地として指定され、水害の被害もある地域であるが、職員は防災意識を高く持ち、地域や行政と一体となつての研修や訓練などの取り組みは利用者の安全安心な日常につながっている。職員は、働きやすい職場環境や充実した研修の中で、理念に沿った目標を立てて利用者の支援に当たっている。利用者は、体操、清拭タオルたたみ、レクを行う日常生活のほか、家族等に年賀状を書いて送り、ひな祭りの歌と一緒に歌ったり、七夕には願い事を書いた短冊を飾ったり、納涼祭など季節のイベントを楽しんでいる。希望に応じて最期まで生活できる支援が行われており、家族等も安心して利用できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針、基本指針を各年度ごとに定め会議等でそれらを共有し実践している。	グループホームの理念と倫理綱領に沿って、毎年事業計画を策定している。事業計画を基に、職員は一人ひとり半年ごとに「DoCAPシート」で目標を設定し、振り返りを行い、個人面談を行っている。このようなことから、職員は理念等を意識して、支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の方と祭り・クリーングリーン作戦・子供会神輿等の行事や地元高校生との交流があったが、現在はコロナウイルス感染予防の観点により実施されず。現在は共同枝切り草刈り作業・運営推進会議・自主防災組織における付き合いとなっている。	職員が小学校や地域での認知症サポーター養成講座の講師となって参加している。福祉専門学校の学生の実習を受け入れている。地域住民と雑木林の除草や伐採作業を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する様々な研修に参加し、運営推進会議で報告している。また、管理者並びにスタッフが認知症キャラバンメイト連絡会の会員であり、地域住民・小学生に対し講座実施し認知症サポーター養成に携わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・市職員・区長・民生委員・自警団団長・職員等で2ヶ月に1回開催し、会議と並行し身体拘束廃止委員会も同時に行う事で身体拘束についての理解へ繋がっている。	区長、民生委員のほか、自警団団長が加わるなど地域と密着した運営推進会議を開催している。1月は課題として災害時の対応について、各委員から意見を聞き、議事録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会においてサービスの取り組みや空き情報等の報告を行い良好な関係づくりを図っている。また、管理者が市で実施している福祉に携わる各委員会の委員となっており当事業所のみならず地域福祉に関する意見を伝えている。	職員が、市の「在宅医療・介護連携推進ワーキングチーム」の一員となり、他職種との垣根をなくす「多職種連携」をめざす活動に参加するなど、市との良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議において身体拘束廃止委員会を実施し、委員会内容を職員会議において報告している。また、勉強会・マニュアル確認を行っている。尚、日中は玄関を常に開放する等拘束は行わず、ご家族においては、入居時に身体拘束に関する同意書について説明し、同意を得ている。	身体拘束排除のための委員会を運営推進会議時に開催している。その結果を受けて、職員会議で勉強会と話し合いを行っている。現在、拘束を必要とする利用者はいないが、センサーマットを使用することについては、家族等から口頭での了解を得ている。言葉での拘束についても気をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や通常業務において職員同士で注意しあえる関係づくりを行うと共に、勉強会を行い虐待についての知識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいないが、必要時には積極的に支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書等を充分理解して頂くよう丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者をおき、管理者においては、その苦情解決責任者になっている。法人内では苦情解決第三者委員を設置し、委員のポスターを玄関口に掲示し、ご家族からの意見については、面会時やケアカンファレンス会議時等に、随時意見を伺っている。	家族アンケートを年2回実施し、結果を家族等に報告している。アンケートの内容について、職員で話し合いを行っている。意見箱を玄関に設置している。面会は居室で行うことができている。	アンケートが有効に活用されていることを家族等が感じられるように、職員で話し合った内容まで報告することを期待したい
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の際に面接(6ヶ月に1度)を実施し、意見交換を行っている。	職員同士話しやすい環境にあり、意見も言いやすい。年2回の面談では、上司からのアドバイスや評価者のコメントなど口頭で説明を受け、次の計画に向き合うことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し個々の職務遂行能力の向上に努めている。また次世代育成行動計画策定し「ノー残業デイ」の定着化や有給休暇の積極的取得に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	E式システムを活用し個別の能力向上、開発に努め、段階的な育成を行っている。また、法人内・外研修にてスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会へ参加し情報・意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、ご本人様に雰囲気を感じて頂く。また、ご本人様が意思疎通が困難な場合には、ご家族様より情報収集を行っている。その他として基本情報シートを駆使し、職員間で周知する事としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様と当ホームの見学をして頂き、雰囲気を感じて頂く。その際、面接をし、基本情報に加え相談や要望等を聞く時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がご本人様・ご家族様と直接会話をし、必要に応じたサービスの助言をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で調理、掃除、洗濯等を通し、共に支え合える関係作りを心掛け、実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「生活状況」(生活の様子やお身体の状況等)を送る。また、2ヶ月に1回入居者の生活状況をお知らせする「穂の香メール」等を送っている。面会時等は随時状況を報告したり、常にご家族様との連絡を密にとる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流については、コロナウイルス感染予防の観点により、外出は控えさせて頂いているが面会は適度な距離を保ち実施している。	利用者のこれまでの馴染みの関係を、フェイスシートを作成して職員間で共有している。コロナ禍でも、年賀状を送ったり、状況を鑑みながら家族等と外出するなど、関係が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や洗濯たたみ等、互いに協力し行っている。また余暇活動を通してコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースにもよるが、現在までは継続的支援が必要な退居者はいない。今後必要な方が発生した場合は支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に在宅での生活の様子等を参考し、ご本人様にアセスメントシートを用いて要望・意向に努めている。また6ヶ月に1回ケアカンファレンス会議を設け、ご家族様からの意見を汲み取り、反映している。	入居時の「私の暮らしシート」や「できること・できないことシート」の内容を更新し、職員は利用者一人ひとりに寄り添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に生活歴等を聞き、把握に努めている。居宅支援事業所等の担当ケアマネに連絡しサービス利用経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別台帳記録にて個人状態観察を時系列に記録している。また、身体状況について赤色で区別し、記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良い生活が送れる様、日々の生活の中や面会時に意見を聞くと共に、ご家族や担当職員、計画作成担当者でケアカンファレンスを開催し介護計画を作成している。	センター方式によるアセスメントやモニタリングシートにてモニタリングを行い、家族等も参加し、カンファレンス会議にて検討し、短期6ヶ月・長期1年とした計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、活動記録等に日々の様子を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体での支援体制を構築し要望に応じられる支援体制が確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自主防災組織と連携を図り、定期的な訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者共通事項として入居時に訪問看護と契約して頂いている。主治医に関しては、今まで通りのかかりつけ医か事業所協力医院での訪問診療かの選択肢を設けており、家族に選択して頂いている。	協力医療機関の医師とは24時間体制も取れている。希望を聞いて必要に応じて主治医の変更をしている。訪問看護が週1回ある。外来受診は家族等の付き添いが基本であるが、希望を受けて職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等が見られた際には、迅速に訪問看護に情報提供を行うと共に、適切な対応方法について助言を受けた上で支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行い、状況把握に務めると共に、担当医、並びに看護師との連携を図っている。また入退院時に付き添う支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や緊急時の対応については、入居時にご家族へ指針を書面にて説明を行い同意を得ている。また、現在は全入居者が同医師に診て頂いていることから、段階に応じて話し合いをご家族様と行っており、ご家族様、医師、スタッフ等と密な連携が図れている。職員の外部研修への参加は出来ていないが、定期的に職員会議で方針の共有を図ると共に職員の不安軽減を図っている。	入居時に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、文書にて同意を得ている。医療機関、訪問看護とは24時間の連絡体制があり、フローチャートを作成しており、夜勤者の不安を軽減している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練を年2回、土砂訓練を年1回実施している。また、事業計画に基づき、避難訓練又は防災教育を毎月実施している。防災委員会では、毎月防災会議を行ない、訓練報告や備蓄品状況等を把握し情報共有を図っている。委員会での内容を職員会議で周知し情報共有を図り、職員の防災意識の向上に努めている。	年2回の訓練と、地域の方と一緒に市主催の土砂災害訓練を行っている。雪や台風などの防災研修も行っている。職員から反省点や気が付いたことの報告書は作成されているが、課題を全職員で話し合っただけで今後の具体的な策を記録に残すまでには至っていない。	個人の報告書で反省点や気づきが記されているので、その報告書を基に課題を整理して次に活かせるようにすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時において入居者の名前をイニシャルで呼ぶ事でプライバシーの保護に努めている。入居者様の書類については、第三者から見えない様に書棚に保管管理し個人情報に気を付けている。ご家族様については、入居時に個人情報による同意書の説明を行い同意頂いている。	トイレ誘導の声掛けは小声で対応しているほか、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。朝・夕のミーティング時には、近くに利用者がいるので、利用者のイニシャルで会話するとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場面においても入居者を尊重する様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話の中での訴えや希望を大切にし、極力応えられるような、対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に衣服等を選んでもらっている。理美容は各自地域の馴染みの店に行っては頂いているが都合がつかない方は隣接施設に月2回、出張理容来荘があるので活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った調理器具を使用し一連の作業をスタッフと行っている。また自家菜園で栽培した野菜を収穫し、季節・嗜好に添った料理を提供している。	食材業者を利用している。畑やプランターで夏野菜を育て、使っている。嗜好調査を行っており、希望を受けてバーベキューを行ったりした。利用者の誕生日にお赤飯を炊いて祝ったり、季節ごとの行事食など提供し、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフによる検食を行うと共に、一人一人の食事量や水分摂取(1000~1500cc)を記録しスタッフ間で情報共有している。また、栄養管理については、タイハイにてカロリー計算等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔衛生の声掛け誘導、一部介助行い清潔保持と誤嚥性肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握している。また、温拭タオルを使用し爽快感を得ると共に皮膚疾患予防を行っている。	排泄の回数をチェックし、その人に合った声かけをしている。オムツを使用している利用者に、声をかけてトイレでの排便を支援している。必要な利用者には夜間のみポータブルトイレを使って安全に排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には食物繊維の豊富なおやつや乳酸飲料の提供。また全入居者に適度な運動や水分摂取声掛けの推進を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調の様子や意思に合わせて提供している。入浴介助を基本的に同性介護で対応し、プライバシーに配慮し抵抗感なく穏やかに入浴されている。	柚子湯や菖蒲湯で季節感を味わっている。入浴剤を使用し、温泉気分を味わっている。その人に合った温度の対応や利用者一人ひとりのこだわりのシャンプーとリンスを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は、ある程度ご本人にお任せし、少しでも在宅での生活に近づいた支援を行っている。居眠りされる姿が頻回に見られたり体調変動が見られた際は休息促す声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時服薬している薬や頓服薬は居宅療養管理指導の下、知識の習得に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居申し込み等際に嗜好(飲酒・喫煙等)を伺い、要望があれば医師との相談の上提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	交流については、コロナウイルス感染予防の観点により、外出は控えさせて頂いている。代替え支援として敷地内での散歩や四季折々の行事等を実施している。	以前は毎月1回山川不動尊の縁日に出かけたり、下妻のひな祭りに出かけたっていた。感染状況に応じて外出支援を実施するとしている。現在は体調に合わせて敷地内のベンチにて日光浴や外気浴をしたり、近隣への散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族判断にてお金を預けていないという方が大半である。買い物時に一緒に行く入居者には会計時に財布(ホーム)からお金を出して頂きお金の認識を高めて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実行できる入居者は限られてくるが要望時やスタッフ声掛け時に会話交流を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は一般家庭と同じ構えで入りやすい雰囲気になっている。対面式の台所がある食卓兼居間は電動開閉の天窗があり、快適な居用空間となっている。	玄関脇で犬を飼い、利用者の癒しとなっている。オープンキッチンとなっていて職員は調理しながら利用者の様子を見られるし、利用者も職員の調理の様子が見られるようになっている。玄関横に大きなデッキがあり洗濯物を干したりお茶を飲んだりできるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールにソファがあり気の合った入居者同士で語り合いの場を設けている。また居室場所も各自認識しておりその時の心身状況に応じて活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は使い慣れた家具や壁飾り等、好みの物を持ち込み居室に設置してある。	管理者は利用者や家族等に、使い慣れた家具や生活用具を持ち込んでもらうよう伝えている。誕生祝いの色紙や家族の写真を飾ったり、テレビを置いたり、その人らしい居室にしている。季節ごとの衣類などの入替などは、家族等が行ったり、職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付けて安全且つ自立的歩行、車椅子自走を行って頂いている。またトイレ前にはトイレと分かる掲示をかざし場所を認識して頂く工夫をしている。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 _____ グループホーム穂の香

作成日 _____ 令和 6年 4月 24日 _____

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	年2回ご家族様向けにアンケートを実施し、集計結果を職員間で考察し共有しているが、ご家族様へ職員間での話し合った内容を報告されていない。	集計したアンケートを基に職員間で考察した内容について、ご家族様へ報告を行う。	年/2回ご家族様アンケート実施後、集計した結果及び職員間での考察した内容をご家族様宛に送付し、穂の香事業に対する評価並びに要望をお伝えさせて頂く。	6ヶ月
2	35	防災訓練（土砂災害・火災・地震）等を実施し、報告書を基に、課題・疑問・解決等を話し合い、整理されていない。	訓練等の結果について、全職員で話し合い、今後に向けた課題点及び疑問点を抽出し、具体的に記録に残し問題解決に繋げる。	左記の課題抽出した点について、全職員が会議の場で話し合いを持ち議論し、次回の訓練時に活かせる様、整理し記録に残す。また、全職員が情報の共有を図り不安軽減に繋げる事とする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。